

# 春の叙勲・褒章

平成22年春の叙勲と褒章が発表されました。本市からは、瑞宝双光章に4人、藍綬褒章に1人が選ばれました。受章されたみなさんを紹介いたします。

## ✧瑞宝双光章

わたなべ たかお  
渡辺 登男さん

元水戸地方主席捜査官

(76歳・本城町)



昭和26年に水戸地方検察庁に奉職されてから、43年間にわたり検察事務官として、司法の最前線で活躍されました。また、水戸地方検察庁主席捜査官に昇任されてからは捜査等でその手腕を遺憾なく発揮されました。退職後も市社会福祉協議会の心配ごと相談員や市シルバー人材センターの副理事長として活躍されています。

「職責を全うできたのも諸先輩、地域の方々、家族のご指導・ご協力の賜であり心から感謝しております。今後も微力ながら地域社会のために貢献したいと思っております」。

## ✧瑞宝双光章

いいずみ まこと  
飯泉 信さん

元筑西市消防団長

(72歳・小林)



昭和40年に下館市消防団に入団。郷土の防災機関の一員として災害現場の第一線で活躍。平成9年からは下館市消防団長として組織をまとめました。また、平成17年3月の1市3町の合併に際しては、筑西市消防団の発足に尽力。初代消防団長として旧市町消防団の統合などの諸問題に対し持ち前の統率力を発揮して対応しました。

「叙勲は多くのみなさまのお力添えの賜と感謝しています。自然環境の変化に伴い災害の様相は変貌し、憂慮するところですが、本市の末永い安心を心から念じております」。

## ✧藍綬褒章

すぎやま こういち  
杉山 孝一さん

元統計調査員

(81歳・野殿)



昭和30年に国勢調査員に任命されて以来、通算11回、50年の長きにわたり調査員に従事し、正確な調査で公共の事務に尽力されました。また、農林業センサス調査員としても10回にわたりの確かな農林業の実態把握に務められました。現在も生きがい講座の講師を務めるなど、教育や福祉の分野でも活躍されています。

「広く世間を知り、忍耐強く一つの仕事を成し遂げる喜びを経験できました。今回、褒章をいただけたのは、関係機関と地域のみなさまのご協力の賜と感謝しております」。

## ✧瑞宝双光章

うえき かずお  
植木 和夫さん

元茨城県警部

(73歳・玉戸)



昭和30年に茨城県警察に入庁。古河警察署勤務で退職されるまでの42年間、住民の生活と地域の治安維持に尽力されました。退職後も交通事故相談員として活躍されました。また、関本駐在所時代には地元の人たちと柔道教室「関城柔道会」を立ち上げ、得意とする柔道の技術と精神を教授してきました。現在でも子どもたちの指導にあたっています。

「仕事柄多くの転勤を経験しましたが、家族がいつもそばにいて私を支えてくれました。妻には特に感謝しています」。

## ✧瑞宝双光章

たかほし けいお  
高橋 征夫さん

元筑西広域市町村圏事務組合消防正監

(72歳・本城町)



昭和31年に下館市消防吏員に任官。消防本部の課長や消防署長を歴任。41年有余にわたり消防・防災活動の第一線に立ち活躍されました。特に消防団のポンプ操法の指導についてはその磨き上げた技術を余すことなく伝授。指導を受けた消防団は大会で常に上位に入賞し、県下ではポンプ操法の神様と賞賛を受けました。

「これまでの活動が認められ、はからずも受章の榮に浴し、とても感激しています。これもひとえに多くの方々の長年にわたるご指導ご支援の賜と感謝申し上げます」。

# 元プロ野球選手 田宮謙次郎氏が逝去

## 偉大な強打者

筑西市市民栄誉賞受賞者で、平成14年に野球殿堂入りを果たした、元プロ野球選手田宮謙次郎氏が、5月5日にご逝去されました。82歳でした。

田宮氏は、昭和3年に下館町に生まれました。県立下館商業学校（現下館一高）から

日本大学に進み、昭和24年にプロ野球の阪神タイガースに入団。投手として1年目にいきなり11勝をあげました。その後、肩の故障のために昭和

28年外野手に転向。3年連続打率3割以上を記録しました。昭和33年には首位打者を

獲得し、大型新人の巨人・長嶋茂雄氏の三冠王を阻んだことでも知られています。

獲得し、大型新人の巨人・長嶋茂雄氏の三冠王を阻んだことでも知られています。



第20回（平成12年）田宮杯中学校野球大会で打撃術を熱く語る田宮謙次郎氏（於・下館総合運動場）



第30回田宮杯の開会式では、田宮氏の冥福を祈り参加者全員による黙とうが行われました。

昭和34年には大毎オリオンズ（現ロッテ）へ移籍。大毎では『ミサイル打線』の一員として活躍しました。プロ15年間で打率3割以上を7回マーク。通算成績は1488試合に出場し打率2割9分7厘、106本塁打、597打点。ベストナインに5回も選ばれています。

## 「田宮杯」を創設 野球の発展に貢献

現役を引退後は東映フライヤーズ（現日本ハム）の監督を務め、中日、阪神のコーチも歴任。平成6年から2年間は台湾のプロ野球でも監督を務めました。また、昭和56年には、正しい野球の向上を図り、たくましい体力と豊かな

人間性を培う機会を与えたいと「田宮杯争奪中学校野球大会」を創設しました。今年5月9日には記念となる第30回大会が開催され、県内から22校が参加して熱戦を繰り広げました。

昭和59年から平成13年までの17年間、阪神タイガースのOB会長を務めました。厳しくも温かい人柄で「名物会長」として慕われていました。OB会長を退いた後も、本県出身で元阪神の井川慶投手の後見人を自任していました。

## 野球殿堂入り

平成12年には下館市議に当選。1期で引退しましたが、在職中は地域のアマチュア野

球の普及に尽力しました。

そして、これまでの実績と野球界への貢献が認められ、平成14年に野球殿堂入りを果たしました。また同年、その活躍が多いため市民に夢と希望を与えたことから、市民栄誉賞が贈られました。



野球体育博物館の殿堂ホールには、殿堂入りされた方々の表彰レリーフが掲額されています。（写真は本人所有のレプリカ）



告別式で展示された背番号22のユニホーム